# 北　海　道　の　蜘　蛛

八　木　沼　健　夫

（大阪　追手門学院生物研究室）

## Spiders from Hokkaido and Rishiri Island

Takeo YAGINUMA

北海道のクモを報じた我国最初の文献は，動物学雑誌第6巻第67号（明治27年，1894）162—170頁に松村松年氏の「厚田採集紀行」であり，この中に20種のクモのリストが掲げられている．Salticidae 3種以外は属名のみであるが，特に注目すべきことはミズグモが Argyronetidae：*Argyroneta* sp. として出ていることで，昭和5年の京都が最初と思われていたミズグモがすでに明治時代に発見されていたのである．

後 Bösenberg と Strand の大著 Japanische Spinnen（1906）が出たが，北海道産として取上げられたものは4種（*Theridion tepidariorum, Araneus ventricosus, Araneus cornntus, Araneus pinguis*）にすぎない．

昭和9年斎藤三郎氏の力作 Spiders from Hokkaido（Jour. Facul. Agr. Hokkaido Imp. Univ., Sapporo, Vol. xxxiii, pt. 5, 1934）によつて83種のクモが明らかにされ，同年北海道景勝地協会発行の「阿寒国立公園地帯の動物」（犬飼哲夫博士編）中には11種の和名が見られる．さらに植村利夫氏の小樽・厚田のクモのリスト（Acta Arachnologica Vol. 2, No. 3, pp. 109–111, 1937）が出され，その後斎藤氏のミズグモの記事（Acta Arach. Vol. 6, No. 4, pp. 117–120），植村氏のエゾトタテグモの記載（Acta Arach. Vol. 7, No. 1, pp. 31–35, 1942）等があり，これに斎藤氏の利尻・礼文のクモ（Proc. Imp. Acad., IX, No. 6, pp. 273–276, 1933）を加えると97種（千島は省く）のクモが北海道から知られるに到つた．しかしその後は久しく北海道のクモの Fauna に関する報文は見られなかつた．

所が昭和29年7月及び昭和31年7月の2回にわたつて筆者は北海道を訪れる機会を得，また昭和30年7月には小林紀男氏，同年8月には佐藤納氏の標本が筆者の手元にもたらされ，さらに昭和31年8月には再び佐藤氏により利尻島をも含めた多数のクモが筆者に提供された．また高島春雄氏を通じて井上亮氏の大雪山のクモの寄贈を受けたし，秋山隆史氏や興津伸二氏の標本同定の機会もあり，総数約300個体を検することが出来，71種を確認した．その結果従来の記録に42種を加えることになり，今回保留にしてある未確定種及び新種候補も精査の暁にはさらに相当数の増加を見るであろう．

ここに一先ず筆者の手がけた同定結果を多少分類学的考察を加えて掲げ同好の士の参考に供したい．まだこれだけの資料で北海道の Fauna を論じることは出来ないが，内地性のものがかなり北上していることは注目に値する．また一方北方系のもので北海道

に留つているものもあり本州にまでのびているものもあり，八田線とブラキストン線にはさまれた北海道は今後多くの興味ある事実を示してくれるであろう．

今回の確認種のうち3種は日本の Fauna に新しくはいつた．

本研究に当り，本篇の資料として主体をなす貴重な標本を提供下さつた佐藤納氏（追手門学院教諭）・小林紀男氏（当時追手門学院学生）に，また文献に関し御教示を得た岸田久吉氏に，文献閲覧の便宜を与えて下さつた九大江崎博士・大熊千代子氏・京大波部忠重氏に，標本，文献共に御世話になつた高島春雄氏に厚く御礼申上げる．

調査場所，採集年月日，採集者

登別（8-Ⅶ-'54 八木沼），札幌（17-Ⅶ-'55 小林，9-Ⅷ-'55 佐藤），阿寒湖（5-Ⅶ-'54 八木沼，19-Ⅶ-'55 小林，11-Ⅶ-'55 佐藤），川湯（19-Ⅶ-'55 小林，30-Ⅶ-'55 佐藤，21-Ⅶ-'56 八木沼），洞爺湖畔及中之島（23-Ⅶ-'56 八木沼），定山渓（17-Ⅶ-'55 小林，19-Ⅶ-'56 八木沼），層雲峡（7-Ⅶ-'54 八木沼，20-Ⅶ-'55 小林），十勝川温泉（18-Ⅶ-'55 小林），羅臼（6-Ⅷ-'56 佐藤），網走（12-Ⅷ-'55 佐藤），稚内（27-Ⅶ-'56 佐藤），天人峡（26-Ⅶ-'56 佐藤），愛山渓（10-Ⅷ-'56 佐藤），然別（4-Ⅷ-'59佐藤），大雪山（？-Ⅶ-'55 井上）

リスト中の採集者名はI（井上），K（小林），S（佐藤），Y（八木沼）記号を用い登別（8-Ⅶ-'54 八木沼）を登別（Y 54）の如くに記す．

♀s,♂sは亜成体，♀♀ ♂♂は多数採集したことを示す．和名の後の記号Uは植村利夫氏，Sは斎藤三郎氏により発表されたことを示し，＊は北海道新記録，＊＊は日本新記録なることを示す．

## 目　　錄

北海道本島　(Hokkaido mainland)

**Fam. ACATTYMIDAE**（=Antrodiaetidae）カネコトタテグモ科

1. *Acattyma yesoensis* UYEMURA 1942. エゾトタテグモ　U

1♂　網　　走　（S 55）

本種は北海道野付牛産の成♂にもとづいて植村利夫氏により記載されたものであり，我国のトタテグモ分布上驚異的な発見であつたが爾来その採集を聞かず，13年目の昭和30年大阪の蜂学者であり本会会員でもある佐藤納氏により再び発見された．本種の Type specimen は植村利夫氏の手元に保存されていたが，戦災消失の憂目にあい，今の所本種の唯一の標本として今回の発見は特筆に値する貴重なものである．

さらに本種の重要性はカネコトタテグモ *Acattyma roretzi* L. KOCH 1877 との比較検討の材料として価値の大きいことである．カネコトタテグモは♀のみしか記載されて居ず，エゾトタテグモは♂による記載である為，両者は同一種でなかろうかとの疑念も生じたが，後カネコの♂の発見あり，両者を比較した植村氏は明らかに別種であるとい

い，なおδの記事を発表した故山本源三郎氏の写真と比較してみても別種と見る方がよいであろう．ただ実物の比較に於てその差異を述べ得ぬのは遺憾であり，かつ山本源三郎氏所有のδ標本が2,3年前同氏の手元をはなれて現在行方不明であることは甚だ残念である．

第二の問題としてアメリカに産する *Antrodiaetus* が本属に近似せる点から，この両者の異同如何ということで，Gertsch 博士からも比較を依頼されδ標本を送られて来たが，スプリッターの意見はともかくてして筆者の見解では同属と見てよいい思つている．これらに関しては *A. roretzi* のδを見てから改めて論じてみるつもりである．

分布　北海道

**Fam. AMAUROBIIDAE** ガケジグモ科

2. *Amaurobius claustrarius* (HAHN) 1831. キハダヤミグモ　S

1δ♀　川　湯　(S 55)　　分布　北海道（北欧一帯に分布）

**Fam. ULOBORIDAE** ウズグモ科

3. *Uloborus sybotides* Bös. et STR. 1906. カタハリウズグモ　*

1♀　阿寒，1δ　層雲峡，1δ　登別　(Y 54)　　分布　本州・四国・九州

**Fam. THERIDIIDAE** ヒメグモ科

4. *Theridion tepidariorum* C.L. KOCH 1841. オオヒメグモ　S.U

1♀　定山渓，2♀1♀s　十勝川 (K 55)，2♀1δ (Y 56)，3♀　阿寒 (S 55)，1δ　愛山渓 (S 56)　　分布　北海道・本州・四国・九州

（本種は Archer は *Parasteatoda* に，Levi は *Achaearanea* として取扱うも，筆者は当分 Theridion として扱う）

5. *T. yunohamense* Bös. et STR. 1906. ユノハマヒメグモ　*

1δ　登別，3♀　層雲峡 (Y 54)　　分布　本州・四国・九州

6. *T. pictum* WALCKENAER 1802. セアカヒメグモ（新称）　**

1♀　十勝川 (K 55)

体長 4mm，頭胸部長さ巾に等しく，黄色の地に側縁及び中線上に褐色斑あり，胸板三角形で第一脚間最広，周辺黒色，下唇巾広く下顎の½に達せず，歩脚黄色の地に褐色輪紋あり，腹背は黄色の地に黒斑あり中央に縦長の赤色網状斑あり，この間に白点散布する．腹部下面黄色で糸疣前方及側方に黒斑あり．epigynum 後方に多数の白点あり．（欧州に普通）

7. *T. pinastri* L. KOCH 1872. セオビヒメグモ

1♀　定山渓 (Y 56)　　分布　本州・四国・九州

8. *Dipoena castrata* Bös. et STR. 1906. ボカシミジングモ

1♀　愛山渓 (S 56)　　分布　本州・四国・九州

**Fam. MICRYPHANTIDAE** コサラグモ科

9. *Lepthyphantes cericeus* (SAITO) 1934. キヌサラグモ S
2♀ 阿　寒 (S 55)　　分布 北海道・本州
本種は本州（近畿地方山地）にも産し♂の個体で調べた結果は Nesticus と扱うのには首肯し難く，♂の触肢の構造から *Lepthyphantes* とすべきである．(Nature Study Vol. II. No. 12)

**Fam. THERIDIOSOMATIDAE** カラカラグモ科

10. *Theridiosoma epeiroides* BÖS. et STR. 1906. カラカラグモ *
1♀ 層雲峡 (Y 54)　　分布 本州・四国・九州
*Theridiosoma* は学者により Argiopidae, Theridiidae 等に入れられることがあるが，ここには独立した科として取扱う．

**Fam. LINYPHIIDAE** サラグモ科

11. [1]*Linyphia marginata* L. KOCH 1834. シロブチサラグモ S.U
♀♀ 月寒 (Y 21-VII-'56) 1♀ 美幌 (K 55)　　分布 北海道・本州・四国

12. *L. longipedella* BÖS. et STR. アシナガサラグモ *
♀♀ 川湯 (Y 56), ♀♀ 洞爺 (Y 56)　　分布 本州・四国・九州

13. *L. emphana* WALCKENAER 1837. タイリクサラグモ S
♀♀ 層雲峡, ♀♀ 阿寒 (Y 54), 1♂ 川湯, 1♂ 十勝川 (K 55),
1♀ 網走 (S 55), 3♀1♂ 然別 (S 56)　　分布 北 海 道

14. *L. peltata* WIDER 1834. ハンモツクサラグモ S
2♀ 層雲峡 (Y 54)　　分布 北海道・本州

15. *L. pusilla* SUNDEVALL 1830. ヒメサラグモ（新称） S
1♀ 登　別 (Y 54)　　分布 北 海 道

16. *Labulla contortipes* (KARSCH) 1881. アシヨレグモ *
1♀s 札　幌 (S 55)　　分布 本州・四国・九州

17. *Oedothorax quadripunctatus* UYEMURA 1937. ヨツボシアカムネグモ *
1♂ 阿寒, 1♀ 登別 (Y 54), 1♀ 羅臼 (S 56)　　分布 本　州

18. *O. insecticeps* BÖS. et STR. セスジアカムネグモ *
1♀ 川湯 (S 55), 1♀ 登別 (Y 54)

**Fam. ARGIOPIDAE** コガネクモ科

19. *Araneus marmoreus* CLERCK 1757. キバナオニグモ S.U

---

1) 11. 12. 13. 14は細分によれば Prolinyphia として，15は Microlinyphia として扱われる

♀♀ 阿寒 (Y 54), 1♀ 阿寒 (K 55), 2♀1♂ 阿寒, 2♀2♂ 羅臼, 1♀ 然別 (S 56)
分布　北海道

20. *A. cornutus* CLERCK 1757. ナカムラオニグモ S.U
1♀1♂ 阿寒 (Y 54), ♀♀ 洞爺中之島 (Y 56), 1♂ 阿寒, 1♂ 十勝川 (K 55), 2♀2♀s 稚内 (S 56)　分布　本州・四国・北海道

21. *A. ventricosus* (L. KOCH) 1877. オニグモ S.U
1♀s 登別, 1♀s 倶知安, 1♀ 阿寒 (Y 54), ♀♀s 洞爺, 1♀ 定山渓 (Y 56), 1♀ 十勝川, 1♀s 定山渓, 1♀s 札幌 (K 55) 分布　北海道・本州・四国・九州

22. *A ishisawai* KISHIDA 1928. イシサワオニグモ *
1♀ 網走 (S 55), 1♀ 羅臼 (S 56), 1♀s 登別 (Y 54)　分布　本州・四国

23. *A. angulatus* CLERCK 1757. ヤマオニグモ *
1♂ 層雲峡 (K 55)　分布　北海道・本州

24. *A. absissus* (KARSCH) 1879. キザハシオニグモ *
1♀ 定山渓 (Y 56)　分布　本州

25. A. *pinguis* (KARSCH) 1879. ダイダイオニグモ
1♀2♂s 阿寒 (S 55), 1♀1♂s 阿寒, 1♀Y 十勝川 (K 55) 分布 北海道・本州
本種は斎藤・植村両氏の報文にないが, Bös. Str. によれば北海道根室及びエトロフより採集されて居る. Dönitz は佐賀で採集しているが, 本州中部以西ではほとんど採集されず, 関東・東北よりよくとれている. 本種の♀は Araneus quadratus CLERCK とは全くちがつているが, ♂の触肢の構造は極めてよく似て居り 近縁なることを暗示している.

26. *A. omoeda* THORELL 1870. コブオニグモ S
1♀ 札幌 (S 55)　分布　北海道

27. *A. diadematus* CLERCK 1757. ミカドオニグモ (ニワオニグモ) *
1♀s 然別 (S 56)

28. *A. jaspidatus* (WALCKENAER) 1837. ニシキオニグモ *
1♀ 札幌 (S 55)　分布　本州 (樺太)

29. *Neoscona dönitzi* (Bös. et Str.) 1906. ドヨウオニグモ U.
1♀ 阿寒 (S 55)　分布　北海道・本州・四国・九州

30. *N. fuscocolorata* (Bös. et Str.) 1906. ヤミイロオニグモ *
1♀ 十勝川 (K 55)　分布　本州・四国・九州

31. *N. scylla* (KARSCH) 1879. ヤマシロオニグモ U
1♀s 登別 (Y 54), 1♀s 洞爺 (Y 56)　分布　北海道・本州・四国・九州

*Neoscona scylla var. nigromaculata* (YAGINUMA) 1941.
アトグロヤマシロオニグモ *

1♂ (北海道産, 興津伸二氏標本) 分布 本州・四国・九州

32. *Araneus displicatus* (HENTZ) 1847. ムツボシオニグモ *
2♀ 登別, ♀♀ 層雲峡 (Y 54), 1♀s 愛山渓, 1♀ 羅臼, 1♀ 然別 (S 56)
分布 本州・四国

北方系のクモで北海道に産することは当然ながら今まで記録がなかつた. 次の種と極めてよく似ているが体色, 斑点の数, 大きさが異る. 本種及び次の種は細分式では *Araniella* 属として扱われる.

33. *A. cucurbitinus* CLERCK 1757. ハナオニグモ *
1♂ 然 別 (S 56) 分布 本州・四国

34. *Singa theridiformis* BÖS. et STR. 1906. ヨツボシシヨウジヨウグモ (新称) *
1♀ 札 幌 (S 55) 分布 本州・四国・九州

35. *Zilla sachalinensis* (SAITO) 1934. カラフトオニグモ *
1♀1♀s 川湯 (S 55), 1♀1♂ 阿寒, 1♀1♂ 登別 (Y 54),
1♀ 羅臼, ♀ 愛山渓 3♀ 然別 (S 56) 分布 本州・四国・九州 (樺太)

本種に近似したものに十勝産の *Zilla tokachianus* (SAITO) 1934 があるが, 今回見たものはすべて上記種であつた.
樺太産のものが Type になつているが全国山地に普通な種である.

36. *Cyclosa argenteo-alba* BÖS. et STR. 1906. ギンメツキゴミグモ *
1♀ 登 別 (Y 54) 分布 本州・四国・九州

37. *C. insulana* (COSTA) 1834. シマゴミグモ *
2♀ 札 幌 (S 55) 分布 本州・四国・九州

38. *Meta kompirensis* BÖS. et STR. 1906. タニマノドヨウグモ *
1♀ 川 湯 (K 55) 分布 本州・四国・九州

39. *M. yunohamensis* BÖS. et STR. 1906. タニガワドヨウグモ S
1♀ 天人峡, 1♀ 羅臼 (S 56) 分布 北海道・本州・四国・九州

**Fam. TETRAGNATHIDAE** アシナガグモ科

40. *Tetragnatha praedonia* L. KOCH 1877. アシナガグモ U.S
1♀s 十勝川 (K 55), 1♀Y 阿寒 (Y 54), ♀♀♂♂ 洞爺 (Y 56)
分布 北海道・本州・四国・九州

41. *T. squamata* KARSCH 1879. ウロコアシナガグモ S
1♀ 阿寒 (Y 54), 1♀s 十勝川 (K 55) 分布 北海道・本州・四国・九州

42. *T. yesoensis* SAITO 1934. エゾアシナガグモ S
1♀1♂s 1♀ 層雲峡, 1♀ 登別 (Y 54), 1♂ 川湯 (Y 56),
2♀ 大雪山 (I 55) 分布 北 海 道

**Fam. LYCOSIDAE** ドクグモ科

43. *Lycosa annulata* THORELL 1870. シマドクグモ S
1♀ 登 別 (Y 54) 分布 北海道・本州・四国・九州

44. *L. daisetsuzana* SAITO 1934. ダイセツドクグモ S
1♂ 大雪山 (I 55), 1♂ 羅臼 (S 56) 分布 北 海 道

45. *L. lugbris* (WALCKENAER) 1802. エゾドクグモ (新称) **
1♀ 阿 寒 (S 55)
ヨーロッパに普通，日本未記録種.

46. *L. T-insignita* BÖS. et STR. 1906. ウズキドクグモ S
1♀s 札幌—函館 (K 55) 分布 北海道・本州・四国・九州

47. *Trochosa spinipalpis* F.O. CAMBRIDGE 1895. トゲウデドクグモ (新称) **
1♀ 羅 臼 (S 56)
本種に近似せるものに *Trochosa terricola* (THORELL), *T. ruricola* DEGEER, *T. robusta* SIMON 等あり，♂に於ては区別比較的容易であるが♀の区別は極めて困難である．本種は Wiehle, Locket, Millidge 及び最近の Chrysanthus 等の記述にもとづき，epigynum の主要部の長さの比率測定と genitalia の苛性カリ処理により決定した.

48. *Archtosa* sp.
1♀ 羅 臼 (S 56)
本種は *Archtosa perita* (LAT.) に近似するが，ここには種の決定を保留しておく.

**Fam. PHOLCIDAE** ユウレイグモ科

49. *Pholcus opilionoides* (SCHRANCK) タイリクユウレイグモ *
1♀ 定 山 渓 (Y 56) 分布 本州 (日本アルプス)

50. *Pholcus affinis* SCHENKEL 1953. エゾユウレイグモ (新称) **
1♂ 然 別 (S 56)
本種は *P. phalargioides* や *P. opilionoides* に近似しているが♂の触肢の構造が異なつて居り，apophysis の形が何れよりも細い靴型，appendix は大きく末端広がつている．*P. crypticolens* に似た所もあるが眼域が異り，歩脚に輪紋を欠く，腹部は前記3者の何れよりも丸味を持つている．本種は中国天津産のものを Type として SCHENKEL によつて報告された．(Boletim Do Museu Nacional, No. 119. p. 23,

1953 [Brazil])

**Fam. OXYOPIDAE** ササグモ科

51. *Oxyopes sertatus* L. KOCH 1877. ササグモ *
1♀s 登　別 (Y 54)　分布 本州・四国・九州

**Fam. AGELENIDAE** タナグモ科

52. *Agelena limbata* THORELL 1897. クサグモ S
1♀s 洞　爺 (Y 56)　分布 北海道・本州・四国・九州

53. *Coras insidiosus* (L. KOCH) イオグモ *
1♀1♀s 洞爺 (Y 56), 1♀2♀s 十勝川 (K 55)　分布 本州・四国・九州

**Fam. THOMISIDAE** カニグモ科

54. *Diaea takashimai* (UYEMURA) 1937 [=*Oxyptila takashimai* U.]
アマギエビスグモ *
1♀ 阿　寒 (S 55)　分布 本　州

55. *Misumena tricuspidata* (FABRICIUS) 1775. ハナグモ S
1♂ 網走, 1♂s 阿寒 (S 55), 1♀ 定山渓, 2♀ 洞爺 (Y 56)
分布 北海道・本州・四国・九州

本種は最近 *Misumenops* として扱われて居る. 欧州の学者は既に検討の上 *Misumenops* を使用して居り, Gertsch も *Misumenops* とすべき意見を寄せているが, 当分従来通り *Misumena* として扱つておく.

56. *Oxytate striatipes* L. KOCH 1877. ワカバグモ S
1♂ 登　別 (Y 54)　分布 北海道・本州・四国・九州

57. *Oxyptila decorata* KARSCH 1879. キハダカニグモ *
1♀ 札　幌 (S 55)　分布 本州・四国・九州

58. *Tibellus oblongus* (WALCKENAER) 1802. スジシヤコグモ S
1♀ 阿寒 (Y 54), 1♂ 然別 1♀ 羅臼 (S 56)　分布 北海道・本州

59. *Tmarus piger* (WALCKENAER) 1802. トラフカニグモ S
1♀ 阿　寒 (S 55)　分布 北海道・本州・四国・九州

60. *Pistius truncatus* (PALLAS) 1772. カザミグモ S
1♀ 定 山 渓 (Y 56)　分布 北海道・本州・四国・九州

**Fam. SALTICIDAE** ハエトリグモ科

61. *Siticus bilineatus* SAITO 1939. フタスジハエトリグモ *
1♀s 登別, 1♀s 阿寒 (Y 54), 1♀s 洞爺 (Y 56)　分布 本　州

62. *Evarcha albaria* (L. KOCH) 1877. マミジロハエトリグモ S

1♂s 札一函 (K 55), ♀ 愛山渓 (S 56)　　分布　北海道・本州・四国・九州

63. *Hyctia elongata* (KARSCH) 1879. [=*Icius magister* KARSCH]
ヤハズハエトリグモ　*
1♀s 札一函 (K 55)　　分布　本州・四国・九州

64. *Jotus difficilis* BÖS. et STR. 1906. マガネアサヒハエトリグモ　*
1♀ 登別 (Y 54), 1♀ 定山渓 (Y 56)　　分布　本州・四国・九州

**Fam. CLUBIONIDAE** フクログモ科

65. *Phrurolithus claripes* (DÖN. et STR.) 1906. [=*Micaria claripes* B. et S.]
イナズマウラシマグモ (改称)　*
1♀ 阿　寒 (S 55)　　分布　本　州
本種の原記載は色彩のみの簡単なものであるが, Bös. Str. の図及び記載から *Micaria claripes* に同定すべきものである. しかし次の標徴により *Micaria* として扱い難く, *Phrurolithus* に転じた. 1. 上顎前面に1対の長い刺がある. 2. 下唇横長で下顎の½に達しない. 3. 第1脚脛節下面に6対, 蹠節下面に3対の刺がある.

66. *Clubiona jucanda* (KARSCH) 1879 [=*Clubiona mantis* BÖS. et STR.]
ヤハズフクログモ　*
1♂ 旭川 (Akiyama 55)　　分布　本州・四国・九州
原記では本種は *Clubiona mantis* になるが, *Clubiona mantis* は *Clubiona jucanda* の♂である.

67. *Clubiona vigil* KARSCH 1879. ムナアカフクログモ　*
1♀ 定 山 渓 (Y 56)　　分布　本州・四国・九州

68. *Chiracanthium japonicum* BÖS. et STR. 1906. カバキコマチグモ　*
1♀ 定 山 渓 (Y 56)　　分布　本州・四国・九州

**Fam. GNAPHOSIDAE** ワシグモ科

69. *Yoshidaia* (?) *albimaculata* (SAITO) 1934. シロブチワシグモ (改称)　S
(=*Castianeira albimaculata* SAITO)
1♂ 然　別 (S 56)　　分布　北海道・本州・四国・九州
本種は Clubionidae と扱うのは適当でないし, 又 *Castianeira* でないことは明らか. 眼, 蛛疣の状態, 下顎, 上顎等から Gnaphosidae に入れるべきである. 岸田久吉氏のワシグモ科総説 (Lansania, Vol. 4, No. 31, pp. 10-12, 1932) によりヨシダグモ亜科・ヨシダグモ群に入るものであるが, 属は明らかでない.
しかし本群に属する他の属の何れにも該当せず, また岸田氏の教示により, とりあえず *Yoshidaia* として扱つておく.

## 利尻島のクモ (Rishiri Island)

佐藤納氏採集の利尻のクモを次にまとめて記す（採集 28～30-Ⅶ-1956）

△は利尻島新，＊は北海道新，＊＊は日本新である．

(1) *Linyphia emphana* WALCKENAER 1837. 5♀1♀Y 2♂

(2) *Araneus displicatus* (HENTZ) 1847. 3♀s △

(3) *Araneus cornutus* CLERCK 1757. 1♀3♀s

(4) *Aranens ventricosus* (L. KOCH) 1877. 1♂s △

(5) *Zilla sachalinensis* (SAITO) 1934. 1♀ △

70. (6) *Misumena japonica* BÖS. et STR. 1906. コハナグモ 1♀1♂2♀Y ＊△

分布 本州・四国・九州

(7) *Theridon tepidariorum* C.L. KOCH 1841. 1♀1♀s 2♂

(8) *Lycosa annulata* THORELL 1870. 1♀

(9) *L. lugbris* (WALCKENAER) 1802. 1♀ ＊△

(10) *Trochosa spinipalpis* F.O. CAMBRIDGE 1895. 1♀ ＊△

71. (11) *Trochosa terricola* THORELL 1856. カラフトドクグモ 1♂ ＊＊△

内牙堤に2歯，♂の触肢端に爪なし. 分布 (樺太)

## 文 献 (主要なものにとどめる)

**Archer :** Amer. Mus. Nov., No. 1487, 1951, No. 1622, 1953, **Blackwall :** Hist. Spid. Gr. Brit., 1861-64, **Bösenberg :** Zoologica, 14, 1901-3, **Bösenberg** u. **Strand :** Abh. Senck. Nat. Ges., XXX, 1906, **Bristowe :** Comity of Spiders, 1939-41, **Cambridge, F.O.:** The Spiders of Dorset, 1879-81, **千國安之輔**：日本アルプス山系の蜘蛛, 1941, **Chrysanthus :** Entom. Bericht. 15-23, 1955, **Clerck :** Svenska Spindlar, 1757, **Comstock :** The Spider Book, 1940, **Crome :** Zool. Jb. (Systematik) Bd. 83, Hft. 6, 1955, **Hentz :** Spiders of U.S., 1875, **Karsch :** Ver. Nat. Ver. Preuss. Rhein. 36, 1879, **岸田久吉**：富士の動植物, 1928, **Koch :** Abh. d. k. k. Zool bot. Ges., 27, 1877, **Koch :** Kongl. Svenska Vet. Akad. Hand. Bd. 16. Nr. 5, 1878, **Levi :** Amer. Mus. Nov., No. 1718, 1955, **Locket & Millidge :** British Spiders, 1951-53, **松村松年**：動雑 Vol. 6, No. 67, 1894, **Odenwall :** Öfver. Fin. Vet. Soc. För. XLIII, 1900-1, **Roewer :** Tierwelt Mitteleuropas, III, 1929, **Saito :** Proc. Imp. Acad. IX, No. 6, 1933, Trans. sapporo Nat. Hist. 1933, Saito Ho-on Kai Mus. Bul., No. 18, 1939, 熱河省の蜘蛛類, 1936, 日本動物分類, 真正蜘蛛目 Ⅱ, 1941, **Schenkel :** Bolet. Do Mus. Nac., 1953, **Simon :** Hist. Nat. Araig., 1892-1903, **Strand :** Archiv für Naturg. A. 11, 1916, **Thorell :** Rem. on Syn. Eurp. Spid., 1870-73, **植村利夫**：Acta Arachnol. Vol. 2, No. 3, 1937, Vol. 7, No. 1, 1942, **八木沼健夫**：Acta Arachnol. Vol. 14, No. 1, 1955, Atypus No. 10, 1956, Nature Study Vol. II, No. 12, 1956. **吉倉眞**：樺太産黄金蜘蛛科生態と分類, 1939.